

京都ボランティア協会2015年度事業報告

目次:

	前文	…1ページ
<事業>		
	1 【ボランティアコーディネート事業】	…2ページ
	2 【援助・交流事業】	…3ページ
	3 【広報事業】	…5ページ
	4 【研修事業】	…5ページ
	5 【研究事業】	…6ページ
	6 【地域における社会福祉の推進事業】	…7ページ
	7 【評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】	…7ページ
	8 【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】	…8ページ
<組織・運営>		
	1 【組織・運営体制整備】	…8ページ

<事業>

【1. ボランティアコーディネート事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>通年・継続</p> <p>ボランティアコーディネートの実施</p> <p>在宅でのボランティア活動</p> <p>グループ活動(協会内外)</p>	<p>・ボランティア活動の啓発と推進</p> <p>・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流、ひいては社会貢献。</p> <p>・ボランティア登録者継続と増加を推進。特に在宅生活者の依頼に応える、寄り添うボランティアの増加をはかる。</p> <p>・相談業務等から見える生活・福祉ニーズの把握と分析。</p> <p>・地域資源の把握(新たなボランティア活動先、受入先の開拓など)</p>	<p>①ボランティア相談(ボランティア活動希望者およびボランティア依頼者からの相談)</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等の実施</p> <p>(介護保険改正に伴う対応策)</p> <p>③ボランティア登録者の増員と交流</p> <p>④ボランティアコーディネート事業体制の整備</p> <p>⑤京都市福祉ボランティアセンターとの連携</p> <p>⑥「きょうボラ」発行(年4～5回)</p> <p>⑦大学・地域等への事業紹介等広報活動の実施</p> <p>⑧訪問型子育て支援の導入(2015年度新規事業)に関して</p>	<p>①ボランティア相談</p> <p>・ボランティア相談の実施→115件(前年度111件とほぼ横ばい)</p> <p>・ボランティアしたい相談→49件 ※内新規登録者11名</p> <p>なお、ボランティア登録者数→57人(前年度ボランティアしたい相談49件と同数 ※内新規登録者11名。なお、前年度ボランティア登録者数→56人)</p> <p>・ボランティアほしい相談→66件(前年度ボランティアしたい相談62件より微増)</p> <p>相談の内、ボランティア紹介数は33件(前年度34件)、内他団体紹介し完結した相談は12件(前年度0件)</p> <p>今年度は、地域資源を積極的に活用出来、少人数で相談業務にあたる時、更なる地域資源の活用が必要と思われる。</p> <p>※注:ボランティアほしい相談全てが、最終的な依頼にはなっていない。</p> <p>【別添資料1】</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等の実施</p> <p>・前期・後期に分け、各5回シリーズの講座の実施</p> <p>・京都府社協の協力を得て出前講座「2015年介護保険法改訂にと伴う”総合事業”の進捗状況と課題について」勉強会開催した(3/9)</p> <p>③ボランティア登録者の増員と交流</p> <p>・ねこのてさろんにより、会員・登録Vとの交流を実施→交流は計れたが、登録者の増員には結びつかない。参加者集め、新たなメンバー定着は今後も課題。</p> <p>④ボランティアコーディネート事業体制の整備</p> <p>・コーディネート会議を2～3か月ごとに開催</p> <p>現状把握とその情報を協会内部で共有する方策の検討が必要である。</p> <p>⑤京都市福祉ボランティアセンターとの連携</p> <p>・広報の依頼を積極的に行っている。個別のボランティア相談も9件(前年度3件)と増加傾向にある。</p> <p>⑥「きょうボラ」発行</p> <p>・「きょうボラ」年4回発行各1200枚「ボラタス」と共に発送。また講座等の機会を捉え配布している。「きょうボラ」を見られた方から直接ボランティア相談に結び付けることは難しい。他機関との協力体制が今後益々必要だと思われる。しかし地道に活動していくべきである。</p> <p>⑦大学・地域等への事業紹介等広報活動の実施</p> <p>・華頂女子高やワタキューは研修の機会を捉え紹介しているが活動になかなか結びつかない。発信し続けることは必要はある。なお、大学へのアプローチ方法を検討すべきかもしれない。</p> <p>・菊浜学区の行事には積極的に参加し、朝カフェにも参加しているが一部の協会会員以外の方とは一朝一夕に関係は築けない。</p> <p>⑧訪問型子育て支援の導入に関して、2015年度他団体の「子育て支援」の動向をみて、協会が取り組むには時期尚早と思われる。</p>	<p><ボランティア登録者増></p> <p>・新規相談者に対し登録まで結び付けられるよう相談後の状況をこまめにフォローしていく必要がある。</p> <p>・ねこのてさろん等と合同で講座などを開催し、身近なボランティア活動を紹介し、登録者増に繋げていきたい。</p> <p>・すこしプラスがある、学びや出会いがあるというお感のある講座や遊びの部分のある気軽さ、知り合いを増やしていく機会のあるものを開催していく。</p> <p>・ボランティア登録会、あるいは相談会の開催。活動により「人と会う楽しさ」をボランティア依頼者や活動するボランティアの生の声を届ける機会を増やす。その場合の活動分野などは考察の必要あり。</p> <p>・ボランティア活動継続後の連絡等密にし活動者の声を発信する機会を増やしていく。ボランティア活動希望者(登録者)同士の交流機会をつくり、仲間づくりや支え合う機会ができないか。</p> <p>・ボランティア活動継続後の連絡等密にし活動者の声を発信する機会を増やしていく。ボランティア活動希望者(登録者)同士の交流機会をつくり、仲間づくりや支え合う機会ができないか。</p> <p><ボランティア依頼者増></p> <p>・高齢者のボランティア依頼が障がい者や児童に比べて圧倒的に多い。この状況を踏まえ対応すべきと考えるが、現状を知ることから初めていきたい。</p> <p>・ボランティアをされた方の意見をこまめに聞くことにより状況把握に努める。</p> <p>※ボランティア登録者増とボランティア依頼者増は不離一体のものであり、双方の上記改善策に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・2015年度から専属のコーディネーターを配置していない。職員2人で対応し、随時受け付けている。</p> <p>・障害者自立支援法の居宅サービスと通所サービスの一体的な提供も可能になったせいか、この件に関する継続的な依頼が減少。</p>

【2. 交流・援助事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策												
<p>通年・継続</p> <p>第8回きょうボラふれあい祭</p> <p>創立45周年事業の一環として 会場：みやこめっせ 開催日：2016.3.21 テーマ： ありのままのみんなが主役</p>	<p>・新たなボランティアスタッフの人材発掘と育成。</p> <p>・ボランティア、関係団体、企業その他との交流、連携推進。</p> <p>・新たな活動の創造・発信。</p> <p>・ボランティア中心に、祭準備段階から企画・運営をボランティア実行委員会が主催し、参加団体と事務局がサポートする。</p> <p>「きょうボラふれあい祭」企画内容変更、運営、作業ボランティア募集！！</p>	<p>①ボランティアスタッフ等の募集と学習会</p> <p>②実行委員会の設置(企画・運営)</p> <p>③祭のホームページの管理</p> <p>④バザー物品、抽選物品の確保</p> <p>⑤広報の充実(パンフレット・ちらし他)</p> <p>⑦祭記録・報告書の作成</p>	<p>5年ぶりに「みやこめっせ」の3階で開催したが、来場者数はカウントできず不明。</p> <p>後援(12)・協賛(38)・参加団体(40)。前日準備・当日ボランティアのべ100人参加。</p> <p>・委員会・準備委員会・振り返りの会合計8回。参加団体説明会も20団体が参加した。 毎月の実行委員会前にボランティアスタッフ説明会を開催した。</p> <p>・今回は、新たに実行委員のための講師をお招きしてボランティア講座も3回開催した。</p> <p>・ボランティア作成・管理で各担当(市場等)や祭りの楽しさをアピール・広報する。(ボランティアズ及び京都新聞・毎日新聞での広報活動)</p> <p>・物品の集まりは毎年減少している。</p> <p>・広報(京都新聞や折込等)で物品も集めることができた。</p> <p>・黄色いレシートキャンペーン活動でのレシート金額から得られた日用雑貨の景品は有り難い。 年々黄色いレシートの贈呈額が減少している。</p> <p>・バザーの値付けや抽選会の作業は、社会生活に不安のある若者やベテランボランティアのウエスマンバーが担ってくれた。</p> <p>【別添資料 2】</p>	<p>委員会の中で実行委員メンバーの興味から出てくるテーマを話し合う必要があるのではないか。</p> <p>・メンバー定着と活動しやすさを考え、ボランティアスタッフの参加しやすさをともに模索していく。</p> <p>・みやこめっせの広い会場で祭を運営するのは、一体感や使いやすさで参加団体も賞賛している。</p> <p>・啓発活動の効果はすぐに反映されない。 今後祭りの企画・広報活動の模索とボランティアの定着・継続に期待したい。</p> <p>※祭収支</p> <table border="0"> <tr> <td>・黄色レシート贈呈金</td> <td>30千円</td> </tr> <tr> <td>・祭・ミニバザー・協力抽選券ほか売上</td> <td>549千円</td> </tr> <tr> <td>収入</td> <td>合計 579千円</td> </tr> <tr> <td>・みやこめっせ会場費1,035千円ほか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>合計 1,331千円</td> </tr> <tr> <td>差額</td> <td>▲752千円</td> </tr> </table> <p>※京都府共同募金会への抽選券売上金の10%を寄付 31千円</p> <p>・新たな協賛団体が加わった。 (株)カスターネット (株)ファンケル 協賛品を頂く。</p> <p>・指定寄付ボランティアグループ保険 国際ソロプチミスト京都 200千円</p>	・黄色レシート贈呈金	30千円	・祭・ミニバザー・協力抽選券ほか売上	549千円	収入	合計 579千円	・みやこめっせ会場費1,035千円ほか		支出	合計 1,331千円	差額	▲752千円
・黄色レシート贈呈金	30千円															
・祭・ミニバザー・協力抽選券ほか売上	549千円															
収入	合計 579千円															
・みやこめっせ会場費1,035千円ほか																
支出	合計 1,331千円															
差額	▲752千円															

<p>当協会発足 45周年記念事業</p>	<p>～未来に向けたメッセージ～</p> <p>①午前の部: 社会生活に不安のある若者への応援と発表の場の提供</p> <p>②協会の周年事業で会員や一般に向けて感謝の意を表する講演・コンサート</p>	<p>①午前の部 ～ひとりぼっちにしない～参加費 無料</p> <p>②午後の部 記念講演(手ごたえのある生き方)&ハーブ演奏(心からこころへ)参加費1000円</p>	<p>①メンタルな病気を持つ若者の音楽活動者の場の提供応援。 手作りのコンサートとして、京都新聞に掲載され目的のあるコンサートになった。</p> <p>②渡邊先生の講演はボランティア活動の参考になり、ボランティア継続の意思を強くした。話の内容が具体的でわかりやすく、大変感動した。先生の小喃を挟まれての講演は場内笑いの渦となるなど大好評である。渡邊先生の出演は45周年事業を更に盛り上げてくれた。</p> <p>③福祉活動を精力的にしているプロのハーブ奏者をお招きした。池田先生の心情がハーブの音色に乗り移って大変感激した。会場とのやり取りでハーブを身近に感じた。ハーブ演奏で合唱できたことは大感動。などの感想をたくさん頂く。また、国連NGO活動を通して一人ひとりに寄り添い命の大切さを訴えられるトークと、そのお心で奏でられたハーブの音色は聴かせて頂いた人々の心にいつまでも残っている。池田先生の演奏は、協会では3回目となる。 ハーブコンサート来場数は延べ300人余。</p>	
<p>福祉ボランティアフェスタ に参加</p>	<p>「ひと・まち交流館 京都」開催</p> <p>ボランティアビューロー グラウンド1ブースに参加</p>	<p>・大徳寺分室ウエスメンバーと若者ウエスのメンバーとの連携で始めて「たこ焼き」の模擬店を開店し大好評。恒例のミニバザーの開催。</p>	<p>・当日は晴天で来場数も多かった。そのお陰でたこ焼きもすべて完売。 「たこ焼き」出展のために「ねこのてさろん」でメンタルな若者達と数回練習を重ねた。</p> <p>・協会ブースのボランティアの応援に31名参加。バザー物品も在庫も少なかったがよく売れた。</p>	
<p>サロン活動(ボランティア ビューロー活性化)</p> <p>「ねこのてさろん」の運営</p>	<p>・多様な興味や関心を持つ人たちとの交流を通じた「居場所」や仲間づくり。 ・多様なメニュー企画立案作りによる人材及び団体交流。 ・お互い様精神復活。</p> <div data-bbox="309 842 548 906" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ねこのてさろん」企画・運営 ボランティア募集！！</p> </div>	<p>①単発活動企画の年間計画化</p> <p>②居場所機能の活性化: メンバー募集、仲間作り</p> <p>③活動グループ化、自主運営化</p> <p>④新規グループ作り</p>	<p>①「ねこのてさろん」の通年ボランティアに企画を募集している。最終的には、ボランティアと相談して企画する。</p> <p>②あすkyoフェスタ(京都府)京都市障害スポーツセンターの夏祭りに3年連続参加。 ・この3年間企業から届いた「Tシャツ」で大勢の人との出会いがあり、「Tシャツアート」のイベント企画が大成功である。</p> <p>③ボランティアが企画し、呼びかけている。 お花見(雨のため中止)・夏祭り・クリスマス会、長岡京天満宮・サントリー京都工場見学1/20、など企画し約70人が参加した。 ・今後もインドア企画リサーチ、充実と参加者募集方法(広報)に課題がある。</p> <p>④パソコン講座や囲碁や朗読・リコーター(音楽)というサロン活用で、学びと教えるという交流で仲間づくりを楽しんでいる。 「ねこのてさろん」ほか参加人数年間合計: 延べ1000人を超えている。</p>	
<p>ウエスグループの活動・ 支援</p> <p>月2回第2、4木曜他</p>	<p>・活動歴四半世紀以上28年近いグループであり、協会活動の支援者である。</p> <p>・メンバーの高齢化により、活動の継続を目的に支援する。</p>	<p>①ウエス作業支援(ウエス販売含む)</p> <p>②ミニバザーの実施支援</p> <p>③ウエスグループ&「よりあい」の場の充実</p> <p>④ウエスグループスタッフによる諸団体の啓発活動 への参加・協力・支援(共同募金他)</p>	<p>・月2回のウエス作業の実施。</p> <p>・他に青少年街頭活動等が積極的に行われている。</p> <p>・作業場所である大徳寺ボランティア協会分室ではご近所との交流もあり、「おしゃべりカフェ」の場も充実している。</p> <p>・2011年から京都市障害者スポーツセンターの「クリスマス会」や「地域ふれあい感謝祭」また京都府「あすkyoフェスタ」に参加し子供向け「Tシャツアート」出店し、積極的に活動している。 (ミニバザー売上160千円)</p>	<p>・「おしゃべりカフェ」では近隣住人に参加の声かけをしている。継続的な参加は難しい。 (2015年度見学者5人)。</p> <p>・高齢者の居場所作りとして大徳寺分室を京都市長寿福祉課に登録し、引き続き助成金の交付を受けている。</p> <p>・メンバーが現在12名。ウエス作業も含め目的のある居場所として人気が高い。作業する場所が狭い。</p> <p>京都府長寿福祉課 30千円 京都府共同募金会助成金 200千円(居場所づくり)</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・ウエス売上195千円(650.kg)と前年より更に増加した、ウエスの購入先も増えている。 ・また、白川学園にも衣服や雑貨なども寄付し、月一回ウエス作業に出向いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市マーケット回収事業に障害の団体のボランティアとウエスメンバーが構成されている。
--	--	--	---	---

【3. 広報事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
「ボランティア」他広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア」「きょうボラ」他媒体による情報提供と発信。 ・ホームページにて情報の公表を行い広く市民への広報活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ボランティア」発行(年4～5回) 毎回10ページに増頁。 ホームページ管理(システム管理者の保守) 	<ul style="list-style-type: none"> 年間4回(毎回理事長のトップページ挨拶から始まり、主な事業報告など掲載。(45周年記念事業にふれあい祭・未来につなぐメッセージとして豊富な内容で掲載) ボランティア168号～171号 ホームページでは、随時更新できるように編集プログラムが組まれている。新着情報など見やすいように変更した。 システム管理者(会員)の設置。月に3回程度保守点検をお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの記述するページを設け、思いやボランティアの啓発に挑戦できる機会をふやす。そしてアンケート調査を参考にする。 ・ちらし、ポスターなどボランティアスタッフに作成を依頼し、ボランティア活動の場を設けている。 ・ボランティアの内容充実のため、2016年度から関係ボランティアグループの協力を得て、コラムなどグループ紹介を含め順次掲載する予定である。 ・現在、広報先には新聞社は基より、主に京都新聞社会福祉事業団、京・福祉研修情報ネット事業、京都市福祉ボランティアセンター「ボランターズ」、誕生日ありがとう運動友の会京都(折込)ほか依頼している。 ※2016年度から市民新聞にも広報依頼予定(抽選)。

【4. 研修事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
戦後日本の70年:社会福祉の歩みと省察 ～民間社会福祉とボランティアの立場から～ 協会理事長 講師:岡本民夫	戦後日本の70年を契機に、当協会の45周年記念の節目として、社会福祉の立場からボランティア活動の歩みを振り返るとともに今後の社会保障・社会福祉の維持、存続と発展を期してそのあり方を提言し、社会的に発信する。	戦後の混乱と緊急援護(1945～1960年)～緊急対応から基盤整備 復興から自立と反動、好景の影と日から、福祉国家志向～ほか4シリーズ いくつかの時代区分を行い、「時代という社会的舞台」に基盤を置いて、ボランティアを始めとする自発的な活動としての民間社会福祉が果たしてきた役割と成果省察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に力を注ぎ、普段講座に参加される顔なじみではなく、専門職の方々が参加されている。 ・講義の後、質問など白熱し、話題でも盛り上がり、非常に楽しい講座であった。 ・社会福祉実践におけるファシリテーション機能の開講 (※延べ65人参加) ・毎月第1木曜日開催が定着しているのも参加者に都合がよい。
後期・継続 華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に行われているボランティア活動を学び、活動を通し気づき、共感する心を育む。 ・身近な地域の福祉活動や、高齢者・障害者・児童領域の現状を障害当事者や活動団体から学ぶ。 	今年度「ボランティア講座」は、「総合学習ー総合華頂探究」に位置付けられ、高校1年生全員対象の講座要請があった。 授業時間の制約の中で、担当教諭との話し合いの結果、現在社会的な課題となっている「認知症学習」に限定し、「認知症サポーター養成講座」を実施することとし、地元の「粟田包括支援センター」との共催で進めた。 内容は、国既定のカリキュラムで実施し、全履修者にオレンジリングが渡された。	<ol style="list-style-type: none"> 1、華頂高等1学年全員に、国規定の講座を通じ、一定の認知症理解に向けた取り組みが出来た。グループワークを通じ、生徒のほとんどが高齢者と同居していないことが理解できた。 2、レポートから、講義を通し認知症を身近な課題として受け止め、具体的に離れて住む祖父母・隣人の行動・普段のニュースに繋げ理解出来ていることがレポートにて確認できた。 3、講座の中で、当協会にて取り組んできた「みんなの認知症予防ゲーム」が今回の講座のプログラムの中に取り入れることが出来た。講座修了者がこの講師として実践機会が得られ 生徒の反応も良く、貴重な場で活かすことが出来た。

<p>高齢者・障がい者・子ども分野講座実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各領域で求められるボランティア像を知り、実践や体験活動を取り入れ、人材発掘の機会を増やす。 各領域の課題を学び、ボランティアグループ、NPO団体との連携を図る。 「心の栄養支援養成講座」連続シリーズ継続+障害編 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動にあたって知識・技術を身につける講座・研修。 各領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。 ボランティア研鑽とボランティア同士の交流、特に福祉領域のボランティア活動者の数居を低くし、互いに支えあう活動を増やす。 地域生活で求められているボランティアを知る機会。 在宅生活を豊かにすることをお手伝いできるボランティアを知り、実践や体験活動を取り入れた内容の講座づくり。 	<p>・公開講座「ターミナルケアの心を知る」 ＝その実践的研究を踏まえて＝ 昨年に引き続き講師の杉山孝博先生はこれからの高齢者ターミナルケアの特徴・在宅あるいは施設におけるターミナルケアの意味とその条件など多くの事例を交えながらお話を伺い、アイデアを介護の場面や、日々の生活にとり入れたい。 定員200名のところ 参加希望者が240名くらいあったが定員オーバーのため止む無くお断りした。 結果、当日は急病などでキャンセルが多く参加者も183名(スタッフ15名含む)に留まった。 今後の募集方法に課題を残す結果となった。アンケートの回収率が非常に高く、参加者の関心の高さが窺え、大きな成果であった。</p> <p>・高齢者・障害者分野の研修は、「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」で12回開催された。 当協会にて2年間、取り組んできた「みんなの認知症予防ゲーム」の参加者の中の、修了者が講師としての実践の機会を得た。ボランティアリーダー養成の修了者を施設や居場所で活動できるボランティアを養成することが目的である。</p>	<p>広報にはちらし配布など力を注ぎ、テーマに焦点を合わせて訪問看護ステーション、有料老人ホーム、サ高住など幅広く案内した結果、協会のPRIに繋げることができた。</p>
<p>ワタキューグループ新入社員研修(5/7～5/15)</p> <p>福祉施設ボランティア体験講座の企画・講師派遣5回目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア精神を学び、座学や体験活動を通じての「人間力」育成。 企業等の社会貢献活動の啓発や推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の意義を知り、実際に体験活動を通じて現場の職員や当事者と接する機会を通じて交流する。 社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会の提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)。 ボランティア活動や講座の情報提供や発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5回目となる新入社員研修であり、新しい試みとして認知症予防ゲームを取り入れた。 受入先施設からは、認知症等の基礎知識は学んできてほしいとの要望があり、2日間という座学の時間に障害についての基礎知識や体験も交えた講座を行い、好評を得る事が出来た。実習先にも概ね好評でまた、社員の皆さんの反応は皆何かを得て、感じられて戻られ有意義であったと異口同音に。 	<p>「ボランティア」を研修に取り入れた効果をアンケートを活用し教育現場・他企業にも発信して、ボランティアの普遍的な意義をアピールしていく必要性を感じた</p>
<p>史跡ガイドツアー案内</p>	<p>トラベルハウスアイ(奈良県)依頼。 福祉史跡ガイドの依頼</p>	<p>三宅町民生員委員児童委員協議会のコース BBS運動～護王神社～京都サンチュリホテル～サントリー山崎崙留所</p>	<p>2015年度は護王神社だけの案内だが、参加者は11人。京都は、年中観光客が多く、史跡ガイドを活かせる仕組み又は、ガイドの依頼があるときにガイドが出来る人を養成できないか来年度は検討したい。</p>	

【5. 研究事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題
<p>新規事業に関する調査研究 ①京都市マーケット事業</p> <p>②高齢者と社会的に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)</p>	<p>①京都市マーケット回収事業は、2014年度から試行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手軽に出来るボランティア、だれでも出来るエコ・リサイクル活動である。 地域住民に社会貢献活動の啓発や就労支援の活動(障がい者とともに)として研究課題(京都市の助成金交付対象) <p>②ボランティアビューローのサロン事業の活動</p> <p>(認知症やひきこもりなどの予防)</p>	<p>①京都市マーケット回収(ゴミ減量推進活動)</p> <p>京都市では、「ごみ量をピーク時の半分以下まで減らす」という目標を掲げている。古紙・古着等は、地域の集団回収(コミュニティ回収)を奨励している。減量・リサイクルの推進が特に重要な課題となっている。</p> <p>②地域の高齢者や障害者が手軽に出来るサロン(例:趣味・お話し相手等)で認知症やひきこもりなどの予防。</p>	<p>①地域住民の協力を得ながらリサイクルの活動が定着してきた。地域ボランティアはじめ未就労な若者が事業に参加することにより社会とのつながりをつくり、お互いに協力・工夫しながら、この活動が続けられている。この事業4年目に入り、社会的資源を有効利用し若者男女が寄り添う姿勢が見られてきた。</p> <p>②高齢者と社会的に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)</p> <p>毎年、夏祭り時に生きづらい若者達が作る作品の展示会を開催している。祭りやコンサートにも参加し、社会とのつながりを大切にし、少しずつ将来の生活に生かせるように応援していきたい。</p> <p>京都市ゴミ減量推進課 305千円助成 ウェス生産高195千円(大徳寺分室生産含)</p>	<p>メンタルな若者は、大勢の人のところ、声かけなど苦手である。出来るだけ参加するように促している。</p> <p>経験豊富な高齢のボランティア(ウェスグループ)の支援が不可欠である。交流イベントや京都市マーケット回収や若者ウェス作業に常にボランティアスタッフが寄り添い応援している。</p> <p>この事業も丸3年、ウェス作業や各イベントに参加した若者もアルバイトや就業支援A型、B型に通えるようになってきた。</p>

<p>ボランティアコーディネーターに関する調査</p>	<p>・ボランティア活動の啓発と推進 ・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流等。(社会貢献活動) ([1. ボランティアコーディネーター事業])の再掲</p>	<p>・当協会のコーディネーターの範囲が広く、各分野の検討。</p>	<p>介護保険法改訂に伴う、勉強会を開催。 出前講座:京都府健康福祉部 高齢者支援課 介護予防・認定担当者による ”総合事業”の進捗状況と課題について。 高齢者の生活を支えるため、ボランティア、NPOほか事業主体による生活支援サービスの提供体制の構築を支援。 介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・公助の取組を全国展開など。 協会のコーディネーター事業の相談業務は高齢者の在宅生活を求める案件が多く参考になった。</p>
-----------------------------	--	------------------------------------	--

【6. 地域福祉推進事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>災害支援活動</p>	<p>「京都からできること」人的支援・物的支援等後方支援をする</p>	<p>現在、協会の活動は、募金活動しか出来ていない。</p>	<p>一人でも多くのボランティアを求めていく。一般市民への協会活動の広報・啓発機会にふれ、地道な活動を行う。</p>	

【7. 地域密着型外部評価、介護・福祉サービス第三者評価事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>地域密着型外部評価事業の充実</p>	<p>・質の高い評価を目指す。</p>	<p>・評価員の増員 ・評価者の研修体制の充実</p>	<p>2015年度より小規模の調査機関による制度が廃止となる。 昨年実績(GH30,小規模30、計60事業所) GHは7事業所増となるも全体で23事業所減となる。 ・調査員は上記理由で18名のままであるが、実質稼働は12名でその中で調整している。 ・27年度より調査機関が1社新規参入して計5機関となりしかも受診料金を値下げしたり受注獲得競争が激化している。 (総収入 37件×70000円=259万)</p>	<p>・主任調査員が現在6名のため育成が急務である。そのためには内部研修を強化することが必須である。 ・事業推進のため、新規開設の情報を早くキャッチして協会PRIに努める。 ・多数の事業所を運営する事業体にアプローチをかけ、受注に繋げる。 ・事務経費の見直しに努め、削減策を更に徹底する。</p>
<p>介護サービス第三者評価事業の充実</p>	<p>・質の高い評価を目指す。</p>	<p>・評価員の増員 ・評価者の研修体制の充実</p>	<p>受診件数が前年度より6増となり、計28事業所となり新記録で順調に推移している。 ・調査機関は府下17あり、 ・登録調査員は3名増となり、計17名となる。 ・受診率の高い特養ホーム、デイサービスに対して営業促進ツールを作成する。 (総収入 27件 = 325万)</p>	<p>理事を中心に審査員や会員の人脉及びワタキュー協賛事業所等をフルに活用して受診件数増に繋げる。 そのためには多数の施設を運営する法人にターゲットを絞りアプローチを強化することが近道である。</p>
<p>福祉サービス第三者評価事業の充実</p>	<p>・質の高い評価を目指す。</p>	<p>・評価員の増員 ・評価者の研修体制の充実</p>	<p>受診件数は前年度より1増となり、計7事業所となる。 ・調査機関は1社新規参入して計8機関となる。 ・登録調査員は17名(実質稼働9名) ・27年度より保育所(園)が5年に1回の受診が努力義務化されたことに伴い、協会として独自のチラシを作成して協会PRと受診促進を図る。 ・大規模な公開講座を企画して協会の評価・調査事業の啓発、PRIに努める。 (総収入 7件 = 195万)</p>	<p>収益率が高い(受診料金=30万)福祉サービスの受注増を最大の目標年度と位置づけたい。 ・障害事業所、幼稚園に対しても独自の営業ツールを作成してアプローチを強化する。 ・社会的養護関係施設が3年に1回受診が義務化されて28年度が2回目の年度となる。初年度の4実績に留まらず更なる増を狙う。</p>

評価・調査事業の管理・運営体制の整備	・効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制の整備	
--------------------	-----------	---------------------	--

【8. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	事業目的	事業内容	課題	改善策
企業・労働組合との協働と交流	・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。	①協会事業(祭等)への参加および企画等への参画。 ②社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会の提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)。 ③ボランティア活動や講座の情報提供や発信。	協賛団体ボランティア祭り参加減少。 日程調整不可のため、企業からのボランティアの参加が少なかった。 企業側ニーズの情報収集不足。	祭に特化せずボランティア情報等を流せるような工夫。あるいは企業の社会貢献活動事例紹介など。

<組織・運営>

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	事業目的	事業内容	事業成果・今後に向けて
組織基盤の強化	・会員増員・確保に取組み組織基盤を強化する。 (賛助会員の拡大)	①会員拡大委員会の設置 ②イベント等参加団体・者への会員案内・勧誘 ③各新聞社・関係団体の広報媒体の活用 ④理事、会員との交流の機会を設ける	①会員の高齢化もあり、年々会員が減少している。会員拡大委員会の設置が急務である。2015年度 入会者2名 退会者4名 ②イベント等で団体・グループ・会員案内。(幸せの黄色いレシートキャンペーン・各イベントで随時配布)会員から会員への口コミが効果が大きいのではないかと。キャンペーンの為にボランティア協会参加延べ27名。気軽に参加できるボランティア活動の一つであるが、現在ボランティアは高齢者とメンタルな若者が対応している為、13時～15時の昼間の時間帯の参加が少ない。(2015年の寄付金は38,000円ふれあい祭の景品に充当) ③京都市ボランティアセンター・新聞社・関係団体の広報媒体の活用。今年度もイベント・講座案内など京都新聞社会事業団に連続掲載をお願いした。 ④理事、会員との交流の機会を設けるために総会後の交流会(講座等)を開催したがボランティアの参加が少ない。2014年度後半は、さらに参加者が減少し、「これからの京都ボランティア協会のあり方」などについて話し合うことが出来なかった。2016年度は「ボランティアカフェ」など会員や一般も巻き込み協会の将来展望をさらに探求する。
運営体制の整備	・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築き、運営体制を整える。	①一般社団法人移行・事務体制の強化と、迅速な事務遂行 ②事務局体制の整備(人員の補強) ③理事、ボランティアスタッフ、事務局との連携の強化 ④ボランティアスタッフ研修会の実施 ⑤評価・調査事業の管理・運営体制の整備	①一般社団法人化認定を受けて3年経過、公益目的支出計画書を毎年提出が義務付けられている。公益目的財産支出計画によると7年間で994万円を支出しなければならない。(延長する場合は、京都府に申請) 2015年は公益目的支出101万円の支出があったが、人件費の支出が減少しているため全体では赤字である。公益目的財産をすべて支出した時に、収益事業の利益を協会の財産として(運営費)確保が重要。公益事業の進展を図り、新事業の開発が必要。 ②公益事業及び収益事業の事業経費より人件費、調査人件費が主に占めている。会員の中からボランティア事務局スタッフを採用し、長時間のボランティアビューローの管理にご協力を頂く。財政の安定化を図り、事業方針を確定し、事業の充実を図ることが重要であると同時に事務の効率化をはかる事が急務である。 ③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流会ねこのてさろん・祭実行委員会等での交流の場が得られなかった。 ④ねこのてさろんの事業(再掲)2015年はレクレーション等を会員・ボランティア登録、参加は減少。 ⑤継続のボランティアスタッフにボランティア保険の費用は協会負担(2016年対象ボランティア51人13千円))
ボランティアビューロー・3階のボランティアセンターの一部の管理・運営	・有効な管理運営をし、友好的で開放的な場を目指す。	①利用状況の把握・管理	①りすの会・お誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用されている。当協会行事(ねこのてさろん・祭・発送業務・企画委員会・評価事業の審査会)も利用している。他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 2015年度利用者人数: のべ3,320人

		②広報物の掲示・整理 ③ボランティアビューロー活性化事業の促進	②広報物の展示の呼びかけをし、整理に心がけている。 ③ボランティアビューローの開閉時間を変更になり、午前9時から午後9時半(12時間半)長時間に及ぶ為、会員の中から、ボランティア事務局スタッフの採用。主に、ボランティアビューローの朝やイベントの時などのお手伝いをお願いしている。 ④京都市福祉ボランティアセンターの夜間業務のパートが2人退職。ボランティアセンターの夜間パートの職員は、3階の業務以外にも協会事務局の庶務作業も担っている。
財源の確保	・財源確保による安定的事業運営。	①助成金の確保 ②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘 ③会員拡大	①京都オムロン地域基金、京都府共同募金会、京都新聞社会福祉事業団、国際ソロプチミスト京都、会員、一般等からの寄付。 ②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進める。 ③更に公益性のある新事業を展開し会員を拡大する。

2015年寄付金 会員・一般

阿部秀樹
 安倍隆二
 有馬忠広
 岩佐敏子
 ウエスグループ
 宇理須典子
 上田充子
 江崎美子
 大西まさ子
 大矢治世

小谷節子
 朗読かみふうせん
 河田正博
 鎌田松代
 木全満知子
 工藤国子
 下秋紀美子
 白髭ふみ
 世川友祐
 高間美紀

高橋泰子
 高田利一
 竹下洋子(床尾)
 嶽山好男
 つじあけみ
 津止敏彦
 大徳寺分室・ビューロー(はぐくみ募金)
 早川医院(はぐくみ募金)
 丸清木材(株)

松岡幸代
 真野利之
 村上安子
 安田行雄
 安本栄子
 山崎 孝江
 山本賢治
 山本朝子
 渡邊 妙子
 匿名 2名

助成金 (敬称省略)

生命保険協会京都府協会
 京都府共同募金会
 京都オムロン地域機構
 京都新聞社会福祉事業団
 黄色いレシートキャンペーン(株光洋 北大路ビブレ)
 京都府青少年育成協会
 経系の会